

## 三熊野の那智の御山 山口蓬春

大正十五年（一九二六）  
 二四三・五×一三四・五  
 絹本着色

一幅

北海道に生まれた山口蓬春（一八九三～一九七二）は、幼い頃に東京へ移住し、はじめ洋画を志して東京美術学校西洋画科に入学した。しかし途中で日本画科に転向して松岡映丘に師事し、卒業後は映丘の主宰する新興大和絵会に参加した。映丘の影響もあって、この頃より蓬春は古画の学習に熱心に取り組むようになり、その成果は大正十五年（一九二六）第七回帝展に出品された本図にも現れている。

三熊野とは熊野本宮大社、熊野速玉大社、熊野那智大社の総称である。前年の冬に本図を構想した蓬春は、この年の夏に実際に熊野に赴き写生を繰り返した。実際に霊場に足を運んで胸中に去来した「荘厳、静寂な心持」を

表現するべく、画面上部は重厚に塗り込め、対する下部は線描を意識して描いたという。那智の滝とその背後から昇る日輪という構図は、鎌倉時代の垂迹画の名品《那智滝図》（根津美術館蔵）を思わせるが、蓬春は「瀑は特に古名画が目の前にちらつくので、本当に弱りました」（『那智』『美の国』第二卷十一号、昭和元年）と語っており、古典を踏まえながらも近代的感覚をもって自分なりの新たな「那智滝図」を生み出そうと苦心していたことが分かる。この作品で蓬春は特選および帝国美術院賞を受賞し、さらに宮内省の買い上げとなったことで、三十三歳という若さでその名を画壇にとどろかせた。



- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に<sup>1</sup>出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

古典再生 — 作家たちの挑戦

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 72

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 黒川廣子

発行 宮内庁

平成二十八年三月二十六日発行

© 2016, The Museum of the Imperial Collections, Sanjōmaru Shōzokan